

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-73	14-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Alcohol consumption, specific alcoholic beverages, and abdominal aortic aneurysm. 飲酒量、アルコール飲料の種類と腹部大動脈瘤		
<b>執筆者</b>		
Stackelberg O, Björck M, Larsson SC, Orsini N, Wolk A.		
<b>掲載誌</b>		
Circulation. 2014 Aug 19;130(8):646-52. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.113.008279.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
腹部大動脈瘤、飲酒、アルコール飲料、疫学、危険因子	24965567	
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 腹部大動脈瘤（AAA）発症と飲酒およびアルコール飲料の種類との関連について明らかにする。		
<b>方法：</b> 1998年に46-84歳であったスウェーデン男性コホートの男性44,715人、スウェーデンマンモグラフィコホートの女性35,569人を対象とした。飲酒量は食品摂取頻度質問票から把握し、AAA発症はスウェーデン入院登録およびスウェーデン血管登録（Swedvasc）から把握した。ハザード比はCox比例ハザードモデルを用いて算出した。		
<b>結果：</b> 2011年までの14年間の追跡期間（約100万人年）に、1,020人の男性と194人の女性がAAAを発症した。週グラス1杯（エタノール12g）に比べ、週グラス10杯の男性のAAA発症ハザード比は0.80（96%CI 0.68-0.94）であった。女性では週グラス5杯において0.57（95%CI 0.40-0.82）であった。心血管疾患既往のない人では、総飲酒量とAAA発症リスクとの関連は見られなかった。最も消費の多い男性でのビール、女性でのワインとは負の関連があり、リキュールとの関連は見られなかった。		
<b>結論：</b> ワインやビールの適量の飲酒は、低い腹部大動脈瘤発症リスクと関連した。多量飲酒と腹部大動脈瘤リスクとの関連は未だ不明である。		